

## ロケーティングワイヤー施工要領

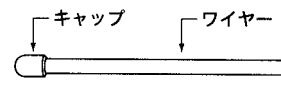
## 1. 目的

この要領は、非金属埋設管にロケーティングワイヤー（以下「ワイヤー」という。）を設置することにより、管路位置の確認を容易にし安全を図るものである。

## 2. ワイヤーの取扱い

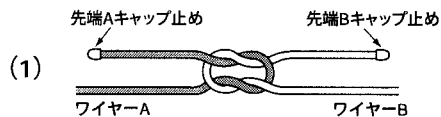
### ① ワイヤー先端部の処理

ワイヤーの先端部は水分が入ると錆が生じ、内部に進行するので必ず指定のキャップで先端部の処理をする。

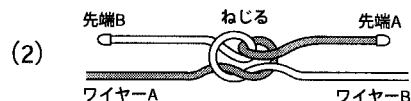


### ② ワイヤーの相互接続

ワイヤーの相互を接続するときは下図のいずれか方法で接続する。



ワイヤーAとワイヤーBを結びます。  
キャップで先端部の処理をして下さい。



結び目をねじってAの先端をB側のワイヤーに、  
Bの先端をA側のワイヤーに向けます。



Aの先端をBのワイヤーに、Bの先端をA  
のワイヤーにそれぞれすまなく15cm  
程度巻いて下さい。



巻きつけた上から自己融着テープでテーピング  
をして下さい。  
※自己融着テープでテーピングした後、さら  
にビニールテープを巻くとベストです。

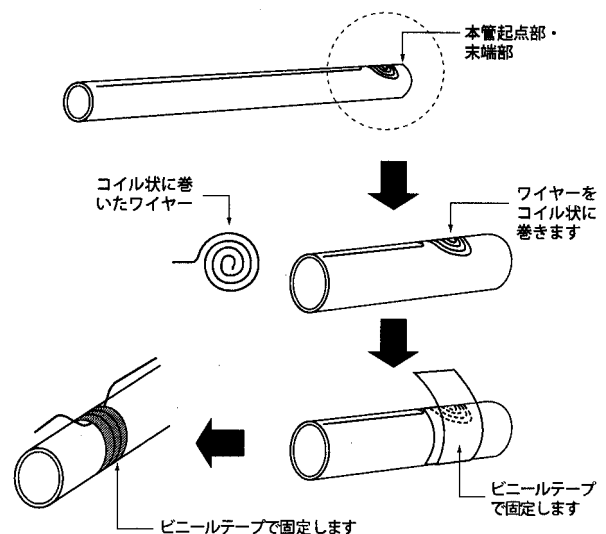
## 3. ワイヤーの施工方法

### ① 本管への施工

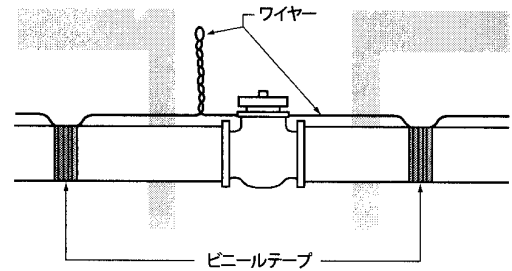
#### (1) 本管への配線

本管への起点部に先端部の処理をしたワイヤーを5～6回程度コイル状に巻いてビニールテープで固定する。固定後、ワイヤーを本管上に若干の緩みを持たせながら配線し、2m程度の間隔をビニールテープで固定する。

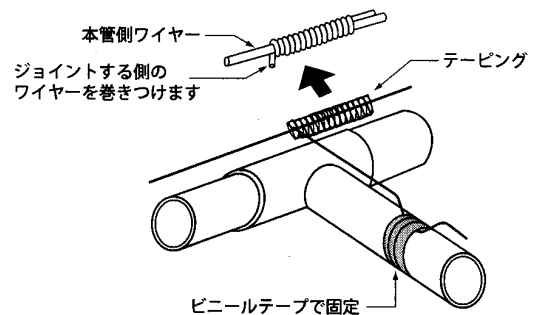
#### (2) 管末も起点部と同様に行う。



- (3) バルブボックスなど  
ワイヤーを切断せず、ねじって図のように折り返して輪をつくり、地上から手の届く位置まで立ち上げる。



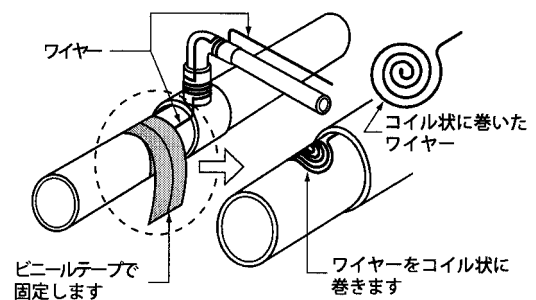
- (4) T字型のジョイント  
ジョイントする側のワイヤーを本管側のワイヤーに隙間なく 15cm 程度巻き付けビニールテープで固定する。



## ② 分岐部分→供給管への施工

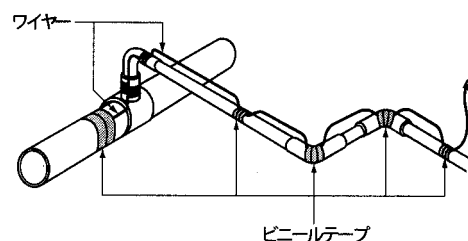
### (1) 分岐部分

ワイヤーの先端部を処理してから先端の 40cm 位を 5～6 回程度コイル状に巻いて本管上に置き、ビニールテープで固定する。さらに供給管の立ち上がり部分に 5～6 回程度巻き付ける。



### (2) 供給管

ワイヤーを若干の緩みを持たせながら配線し、適当な間隔（2m位）でビニールテープで固定する。



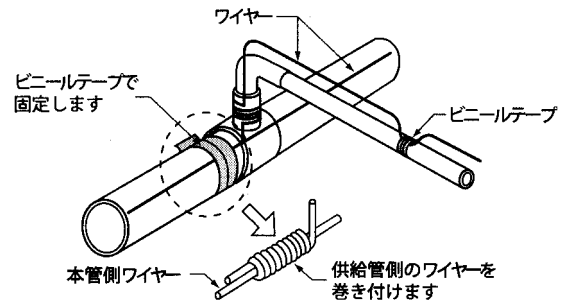
### (3) 供給管の管末

供給管などの管末ではワイヤーの先端部を処理した後、ビニールテープで固定し、さらに 5cm 程度折り返し、ネジリ線状にする。

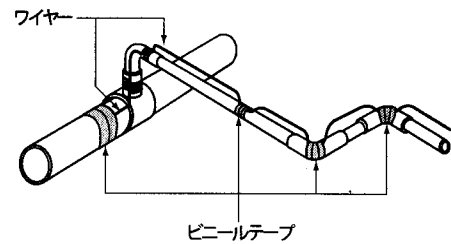


③ 本管にワイヤーが既に配線済みで、後から供給管にワイヤーを配線する場合

- (1) ワイヤーを本管上のワイヤーに隙間なく 15cm 程度ねじって巻き付け、ビニールテープで固定する。さらに分岐部の供給管に 5～6 回程度巻き付ける。

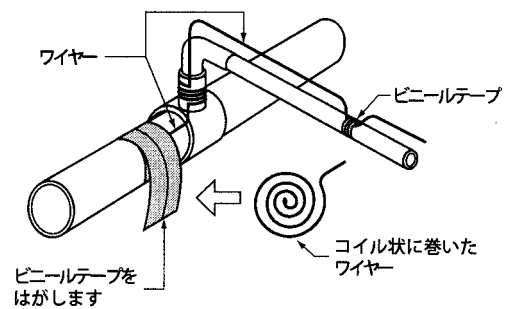


- (2) ワイヤーを若干の緩みを持たせながら配線し、適当な間隔 (2 m 位) でビニールテープで固定する。



④ 供給管にワイヤーが既に配線済みで、後から本管にワイヤーを配線する場合

- (1) 本管上でビニールテープで固定した部分のビニールテープをはがす。この時、ワイヤーの外被に付着している泥、ゴミなどをきれいに落とすこと。



- (2) ビニールテープをはがした部分のワイヤーを本管上のワイヤーに隙間なく 15cm 程度ねじって巻き付け、ビニールテープで固定する。

